

鎌倉映画茶論【わが愛の譜】

「カフェサンスーシ」映画鑑賞の集い

名作は何度見ても新たな発見と感動を与えてくれます



5月18日(木)

16時より無料上映

滝廉太郎物語

第17回日本アカデミー賞
監督賞以下11部門受賞作品

於：カフェサンスーシ

(鎌倉雪の下3-10-23)

清泉小正門前)

要予約 0467-23-7223

毎月第三木曜16時～感動の名画・永遠の名優と共にお過ごし下さい

～ 作品紹介 ～

1993年(平成5年) 東映 澤井信一郎監督 125分

明治12年内務官僚瀧吉弘の長男として東京に生まれた廉太郎(風間トオル)は、明治28年東京音楽学校へ入学しピアニストとしての道を目指しますが、無理がたたって豊後藩の上級武士であった瀧家の故郷大分県竹田へ帰ります。復学した廉太郎は、新しい唱歌運動のために明治33年『花』『箱根八里』『荒城の月』等作曲して才能を開花、教授の幸田延(幸田露伴の妹・檀ふみ)の推薦もあり明治34年4月、メンデルスゾーン創立のライプツィヒ王立音楽院へ三年間の留学、しかし11月に肺結核を発病し翌年10月帰国します。一足先にベルリン国立音楽大学に留学していたのは、ヴァイオリニストの幸田幸(幸田延の妹)ですが、この映画では、ピアニストの中野ユキ(鷺尾いさ子)という設定で、廉太郎とのロマンスを絡めて描かれています。佐藤しのぶの歌う『花』、鷺尾いさ子の演奏(演技)の背景にある当時の名門オケによるピアノ協奏曲の名演、明治36年2月23歳で夭折した廉太郎慟哭の遺作、ピアノ曲『憾(うらみ)』のラストシーンをお見逃しなく!